ISSN 1881-283X

陸の水

No.93

日本陸水学会東海支部会
ニュースレター（2022 年 3 月 31 日）
発行：日本陸水学会東海支部会
連絡先：〒501-6021 岐阜県各務原市
川島笠田町官有地無番地
国立研究開発法人土木研究所
自然共生研究センター
松澤　優樹
Tel:0586-89-6036，Fax: 0586-89-6039
E-mail: matsuzawa-m573bs@pwri.go.jp

目次

■ 2021 年度「第 24 回研究発表会」の報告　（p. 1～2）
■ 2021 年度「第 25 回総会」の報告　（p. 3～8）
■ 身近な水の環境科学 第 2 版の発刊について　（p. 9）
■ 2022 年度「研究助成」の募集案内　（p. 10）
■ 社会貢献活動報告：御嶽ショートレターNo.7（p.11～12）
■ 幹事退任・就任のあいさつ（p.13）
■ 陸の水論文集 2021-2022 年の募集案内（p.13）
■ お知らせ　会費納入（p. 14）
■ 編集後記（p.14）

2021 年度「第 24 回研究発表会」の報告

松澤優樹（土木研究所自然共生研究センター）

日時：2022年2月19日（土）
場所：豊田工業高等専門学校 / オンライン併用（Zoom）

2022年2月19日（土）に、陸水学会東海支部会第24回研究発表会がオンラインで実施されました。今年度も昨年度と同様にコロナの影響により、現地見学会が中止になりましたが、研究発表会はオンラインとの併用ではありますが、現地開催を実施することができました。発表は対面形式が9題、オンライン形式が3題の計12題ありました。昨年度と同様に学生発表者を対象とした発表賞が設定され、最優秀賞1名と優秀賞1名が選出されました。支部会委員による厳正なる審査の結果、見事最優秀発表賞に選出されたのは、武頴さん（名古屋大学）でした。また、優秀発表賞には大沼裕貴くん（豊田工業高等専門学校）が選出されました（写真1）。

武頴さんは、室町時代の近江国出身の僧侶である景徐周麟と「水」との関係性について発表されました。景徐周麟の作品は「水」関連の言葉が頻出し、清潔で純粋な象徴である水を愛し、その詩や文の作品にも多く取り上げています。また、応仁・文明の乱、さらに永正年間には反乱を避け、近江国にある愛知川沿いの永源寺や琵琶湖畔の長命寺に身を寄せていた中で、琵琶湖の話を取り上げていることについて紹介しました。

大沼裕貴くんの研究では、森林流域において、水生生物の主要なエネルギー源である溶存有機炭素（Dissolved Organic Carbon: DOC）の流出負荷量の新しい算出方法である蛍光回帰法の適用性について検討しました。蛍光回帰法は従来の算出方法であるL-Q 法と比較して、流量に依存することがないという特徴があります。実際にこの2つの流出負荷量の算出結果について、現地調査での実測と誤差評価を行った結果、蛍光回帰法は L-Q 法よりも誤差が小さく良好な推定精度が得られたことを報告しました。

今年度は2年ぶりに対面形式での研究発表会を開催することができました。やはり、対面だと質疑応答の時間だけでなく、発表の前後や休憩時間にも参加者と話ができることに大きなメリットを感じました。それでも、対面での参加には人数制限があるため、オンラインを組み合わせることで、多くの人が発表を楽しめたのではないでしょうか。発表件数はコロナ前と比較すると、少なくはなっていますが、以前と変わらず、面白い発表が盛りだくさんです。まだまだコロナの動向が読めないため、来年度もどのような形式で研究発表会が開催されるかは未定ですが、来年度の研究発表会へのご参加お待ちしております。

写真 1. 研究発表会の様子（最優秀発表賞の武頴さん（左上）、優秀賞の大沼裕貴くん（右上）

ISSN 1881-283X

2021 年度「第 25 回総会」の報告

日時：2022 年 2 月 19 日（土）
方法：豊田高専での対面およびオンライン

総会之次第

1. 開会・会長挨拶：　山本会長

2. 議長選出

3. 報告事項

1）2021 年度活動報告：松本副会長

2021 年度の主な活動は次の通り、①談話会を 3 回開催、このうち 1 回は陸水物理学会との合同開催、②サマースクール、見学会は中止、③研究発表会、総会を豊田高専での対面およびオンラインにて開催。

2021 年度事業実施報告

活動項目	当初計画	実施状況
ニュースレター発行	年間 3 号	2021 年 3 月（No.90）、9 月（No.91）、2022 年 1 月（No.92）に発行。2022 年 3 月に No.93 を発行予定。
サマースクール	夏 1 回実施	前年に続き中止。次年に再度予定。
談話会	年 2 回実施	■第 38 回談話会　7/16（金）　18：00～20：00 **大八木英夫**：カンボジア・トンレサップ湖における水環境と人間生活　※場所：椙山女学園大学 ■第 39 回談話会　10/29（金）　18：00～20：00 **須田ひろ実**：富栄養湖の環境整備に伴う動植物プランクトンの変化および環境再整備の提案 **内田朝子**：河川の分断化が著しい矢作川における付着藻類の栄養状態及び一次生産に関する研究 （陸の水 No. 92 に報告）※場所：椙山女学園大学 ■第 40 回談話会　11/20（陸水物理学会との合同開催） **松本嘉孝ほか**：御嶽山南麓河川の水質分布と季節変化について

		谷口智雅ほか：火山山麓地域における発電用ダムの河川取水と河川流量 **宇佐見亜希子ほか**：火山山麓のダム減水区間における湧水と付随ガスによる水環境の特性 **野崎健太郎ほか**：火山性無機酸性湧水における糸状緑藻 *Klebsormidium flaccidum*の繁茂と溶存無機態炭素濃度との関係 （陸の水 No. 92 に報告）※場所：南山大学 第 38 回、39 回：土木学会継続教育（CPD）制度（1.5 単位）認証
見学会	年 1 回実施	ため池の自然研究会と共同開催の予定であったが、中止。
助成金	総額 5 万円以内で 3 件まで	2 件の応募。厳正な審査の結果、今回は **2 件に対し総額 10 万円の助成**を行うことに決定。
広報・学会公式 HP		http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp/ に開設。活動状況・予定など随時更新中。 Facebook による広報は試験運用中。ML は運用中。
総会・研究発表会	2 月 19 日（土）	2022 年 2 月 19 日に実施（豊田高専会場と Zoom オンラインの併用）。 ※研究発表会のプログラム・要旨を web 公開。
論文集販売		バックナンバーを 1 冊 2,000 円で頒布 （2021 年は 1 冊）。
教科書販売		定価 2,700 円を 15%割引で販売 （2021 年は 6 冊）
学生表彰 （優秀発表賞）		研究発表会終了後に表彰予定（最優秀 1 名＋優秀 2 名を予定、対象者 7 名）。 ※前回研究発表会（対象者 9 名）では、最優秀発表賞 1 名、優秀発表賞 2 名を表彰。
幹事会の開催		幹事会の会合：2 回、メール会議：適宜
他団体との交流		第 40 回談話会（前述）を陸水物理学会との共同開催で実施．研究発表会などの行事は相互に周知。

2）2022 年度論文集の編集状況：野崎編集委員長

論文集の編集状況は以下の通り。

論文 1 本：（審査中）、報告 1 本：（受理・早期公開中）、報告 1 本：（受理）

ISSN 1881-283X

3）2021 年度会計報告：宇佐見会計担当

2021 年度予算決算書（2021.01.01～2021.12.31）

[収入]

費目	2021 年度予算	2021 年度決算	備考
前年度繰り越し金	468,202	468,202	
会費収入	136,000	160,000	一般 2000 円、学生 1000 円、家族 3000 円、団体 4000 円 （過年度分 19,000 円、2021 年度分 105,000 円、前受分 36,000 円）
雑収入	930,000	953,627	陸の水 87/88 号掲載料等（掲載料、超過頁料、カラー印刷料等）830,100 円、 論文別刷販売　100,000 円、陸の水 87/88 号販売(1 冊) 2,000 円、 教科書販売(6 冊 15%off)14,586 円、教科書印税 6,941 円
寄付金	0	0	
利子	1	5	
総計	1,534,203	1,581,834	

[支出]

費目	2021 年度予算	2021 年度決算	備考
郵送料	2,000	94	庶務・会計に係る通信費
ニュースレター発行費	2,000	0	ニュースレター陸の水の送料（封筒、切手）
事業費	200,000	100,000	助成金 2 件 100,000 円
広報費	35,000	23,238	インターネット、土木学会継続教育(CPD)制度プログラム 2 回
論文集発行費	800,000	762,870	論文集印刷代、会員等への郵送料
雑費	10,000	1,740	振込み手数料など
予備費	485,203	0	幹事交通費等
総計	1,534,203	887,942	次年度繰越金 693,892 円

4）2021 年度会計監査報告：内田会計監査

適切に会計処理が行われていることを確認した旨、内田会計監査から説明があった。

4. 審議事項

1）2022 年度事業計画：　松本副会長

2022 年度の事業計画が説明された。主な活動は次の通り、

① 談話会を 2 回開催、②見学会の 2 回開催、③市民講座の 1 回開催、④サマースクール開催の模索、⑤研究会・総会を 2-3 月頃実施。

審議の結果、了承された。

2022 年度事業計画

1.　陸の水第 11 論文集（No.9x）の発行（2021/2022 年度合同として）

2.　ニュースレター「陸の水」の発行：年間 3 号
　7 月（No.93）、12 月（No.94）、3 月（No.95）

3.　サマースクールの開催（8 月）
岐阜県水産試験場にて開催予定（宿泊は難しい。日帰りだと場所的には遠方か。）

4.　談話会の開催：年間 2 回（時期未定）
※土木学会継続教育（CPD）制度のプログラム（2.0 単位あるいは 1.5 単位）として実施予定。実施方法は状況に合わせる。

5.　見学会の開催：年間２回
・丘陵地の小川・湿地・池の観察会・見学会（9 月）
・矢作川ほかのアユの産卵の観察会（10 月下旬～11 月上旬）

6.　市民講座の開催：年 1 回
・椙山小学校湧水ビオトープ（生き物採取、水質分析、講義）

7.　総会・研究発表会の開催（2-3 月）

8.　一般研究助成（原則 2 件、助成総額 10 万円以内。一件当たりの上限は 5 万円まで）

9.　学生発表賞の授与（研究発表会にて優秀発表者を表彰）

10.　活動報告（HP の更新、ML・NL、研究発表会の要旨の公開）

11.「陸の水」論文集・教科書販売：

※論文集は 2000 円、
※教科書『身近な水の環境科学　第 2 版』は定価 2,600 円（税別）

12. 社会貢献
2015 年度から実施してきた「御嶽山噴火影響調査」は“地域”活動として継続
2019 年度から、他地域の陸水環境に関する研究と連携し展開する“広域連携”を継続

13. 幹事会の開催

2）次期役員・幹事案：山本会長

資料に従い役員・幹事案が説明され、了承された。

次期役員・幹事

会長	山本 敏哉 （豊田市矢作川研究所）	転任 4/留年 1
副会長	松本 嘉孝 （豊田工業高等専門学校）	転任 7/留年 1
庶務担当	須田 ひろ実（株式会社ニック環境システム）	留任 7 年目
会計担当	宇佐見 亜希子（愛知工業大学）	留任 4 年目
事業担当	大八木 英夫 （南山大学） 年会・総会（大八木英） 談話会 2 回（江端） 見学会 2 回（松本） 市民講座 1 回（野崎，松本） （サマースクール）（大八木英）	留年 2 年目
社会貢献(地域)	江端 一徳 （豊田工業高等専門学校）	留年 2 年目
社会貢献（広域連携）	井上 祥一郎（株式会社名邦テクノ）	転任 7/留年 4
陸の水担当	松澤 優樹 （土木研究所）	留任 3
助成金担当	江端 一徳 （豊田工業高等専門学校）	転任 2
広報 HP 担当	吉成 暁 （いであ株式会社）	留任 8 年目
会計監査	内田 臣一 （愛知工業大学）	転任 7/留年 1
論文集編集委員長	野崎 健太郎（椙山女学園大学）	留任 8 年目
web 会議担当幹事	椿 涼太 （名古屋大学）	転任 4/留年 1

3）2022 年度予算案（資料 2）：宇佐見会計担当

資料に従い、2022 年度予算案が説明され、了承された。

2022 年度予算決算書（2022.01.01～2022.12.31）

[収入]

費目	2022 年度予算	備考
前年度繰り越し金	693,892	
当年度会費収入	117,000	会員　一般 64、学生 1、家族 1、団体 1　＝ 136,000 円※/年 ※（7 会員から 2022 年度会費前受：19,000 円） （備考：4 会員から 2023 年以降の会費前受：33,000 円）
過年度分会費収入	18,000	前年度までの会費徴収
雑収入	880,000	論文集・教科書販売（30,000 円）、印税（50,000 円）、論文集掲載料等（掲載料、超過頁料、カラー印刷料等：800,000 円）
寄付金	0	
その他	1	利子
総計	1,708,893	

[支出]

費目	2022 年度予算	備考
郵送料	1,000	庶務・会計に係る通信費
ニュースレター発行費	0	
事業費	200,000	総会等補助、研究助成（3 件）、社会貢献
広報費	35,000	インターネット、土木学会継続教育(CPD)制度プログラム（3 回）
論文集発行費	800,000	論文集印刷代等，送料
雑費	10,000	振込み手数料など
その他	662,893	次回の論文集発行の積立、幹事会交通費等
総計	1,708,893	

5）教科書の改訂：松本幹事、野崎編集委員長

2 月後半に第三校の確認があり、予定では 4 月 7 日に発刊されることが報告された。

ISSN 1881-283X

日本陸水学会東海支部会

身近な水の環境科学 第２版の発刊について

豊田工業高等専門学校
松本嘉孝

ちょうど１年前の東海支部会総会にて、2014 年に発刊された「身近な水の環境科学　日本陸水学会東海支部会（編集）」の改訂について了承いただきました。その後、多くの東海支部会員の皆様の支えもあり改訂版を、2022 年 4 月 7 日に発刊する事になりました。

第 2 版（改訂版）は、初版の「源流から干潟まで」の構成を踏襲しながらも、気候変動、地形・景観の内容を加えるとともに、最新の陸水および河川生態系の知見や東海地区の陸水データを見直した内容になっています。また、教科書としての利用を考え、章末問題も掲載しています。

支部会員の中で、本書籍を大学などでの教科書として採用された方には、書籍中の図等を授業で活用するためのデータとしてお渡しできます。ご希望の方は、豊田高専 松本までご一報ください。

身近な水の環境科学　第 2 版
表カバー（朝倉書店提供）

書名：身近な水の環境科学 第 2 版
出版社：朝倉書店
ISBN：978-4-254-18062-6 C3040
価格：2,860 円（本体 2,600 円+税）
A5 判／168 ページ
発売予定日：2022 年 4 月 7 日

本書籍に関する問い合わせ先
豊田高専　松本嘉孝
matsumoto.yoshitaka@toyota.kosen-ac.jp

2022 年度「研究助成」の募集案内

次年度の研究助成を引き続き募集しております。水辺環境を対象とした、生物・化学・地学・社会・地理・歴史・環境その他あらゆる探求の取り組みに対して助成を行います。会員以外の方も応募可能ですので、周囲の方々にも周知して頂けると幸いです。

問合せ先：日本陸水学会東海支部会（研究助成担当）
江端　一徳（豊田工業高等専門学校）（ebata@toyota-ct.ac.jp）

アマチュア・若手研究者への調査・研究の奨励

2022年度　日本陸水学会　東海支部会

日本陸水学会　東海支部会

小学、中学、高校の部活動などからの応募を優先して採択します

研究助成募集

趣旨　日本陸水学会東海支部会では、「水辺環境を対象とした、生物・化学・地学・社会・地理・歴史・環境その他のあらゆる探求の取り組み」に対してアマチュア・若手研究者の調査・研究を奨励するために、以下のような研究助成を行います

助成対象となる調査・研究の分野

陸水環境を対象とした自然科学・人文社会科学・環境教育の実践および教材研究など

募集対象者　アマチュア・若手研究者および研究グループなど

助成金額　申請上限5万円で2件の助成を行います

※5万円分の予算まで申請可能ですが、申請内容に応じて減額して支給する場合があります

被助成者の義務　調査・研究は年度内に終了し、その後1年以内に、当支部会研究発表会あるいは、支部会ニュースレター誌上での成果公表をしていただきます

応募方法　以下の項目を含んだ申請書類（A4版、手書き可、当支部会様式使用可）を作成してください

1) 研究題目、およびキーワード
2) 申請者（個人の氏名、またはグループ名）と連絡先
3) 調査・研究課題の内容(1000-1200字程度)
4) 助成金の支出予算案（項目ごとに千円単位で）
例：用品費（備品、消耗品）、調査費（成果発表のための学会・研究会参加旅費を含めても構いませんが、調査費以外は申請総額の1/2を超えないようにしてください）、謝金（アルバイト代）など。※謝金については妥当性のないものは認められません
5)申請代表者の連絡先（電子メール希望の場合はアドレス）明記のこと

※様式は、　http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp/　からダウンロードできます

【注意】
・大学、研究機関に所属していない個人・グループ（小中高校の関係者など）を優先します
・大学、研究機関に所属する研究者、学生も応募できます
・大学（院）生の方は、卒業研究、修士・博士研究の一部内容について申請しても構いません
・営利を目的とする調査・研究に対しては助成を行いません
・当支部会員でなくても応募できます
・応募、採択の機会に、ぜひ当支部会への入会をお願いします

応募締切　5/27(金)、(郵送の場合は消印有効)

※下記まで郵送または電子メールでお申し込みください。

応募・問い合わせ先
日本陸水学会　東海支部会(研究助成担当)
〒471－8525 愛知県豊田市栄生町2-1
豊田工業高等専門学校　環境都市工学科　江端一徳(宛)
E-mail: ebata@toyota-ct.ac.jp

ISSN 1881-283X

社会貢献活動報告：御嶽ショートレターNo.7

「わたしと御嶽山」

豊田工業高等専門学校・環境都市工学科　江端一徳

2014 年 9 月 27 日に噴火した御嶽山において、陸水環境への影響を解明するため、日本陸水学会東海支部会では、噴火 3 ヶ月後より調査を開始しています。
私は、2019 年より本校に着任して以来、調査メンバーの一員として調査・研究活動を進めているところです。実施内容としては、御嶽山の噴火による自然影響とダムからの放流や取水堰堤による水力発電等の水利用といった人間活動の影響を考慮した水文水質モデルの開発を進めています。

今回のニュースレターでは、私にとって切っても切れない「御嶽山」の存在について、それを皆さんにお伝えできればと思い筆を取りました。私にとっての御嶽山は、幼少期から一番身近な山でした。というのも、御嶽山は古来より山岳信仰の山であり、私の祖父が御嶽教の信者でもあったご縁で、毎年お参りがてら、御嶽山に登ることが、小学生であった私の夏休みの一大イベントでした。当時は、小学生ながら山頂まで必死に歩き、頂上から御来光を眺めた思い出が今も記憶に残っています。そして、小学校を卒業した後は、なかなか御嶽山に登山する機会もないまま、大学院に至ります。

私は、大学院時代、山梨県にいたため、よく週末には登山をして楽しんでいました。その時、忘れもしないのが、2014 年 9 月 27 日、ニュースで飛び込んできた御嶽山噴火の一報でした。たまたま噴火の翌日、私は、研究室の仲間とともに日本で第 2 位の標高を誇る北岳に登山を計画しており、正午頃に山頂に到達しました。写真は、その時、北岳山頂から御嶽山を撮ったものになります。噴火翌日ですが、噴煙もかなり高くまで上がっており、北岳山頂からでもその様子が伺えました。そして、下山後、御嶽山噴火の様子を報道で見聞きする度、山頂をはじめ山容の変わり果てた惨状に自然災害の恐ろしさを肌で実感しました。

そして時が経ち、研究者となった今、この御嶽山を研究対象地として、この地を踏むことに、とても感慨深く思っています。また、私自身、何か事あるごと御嶽山に思いを馳せることが多く、人生を共に歩む同士となっています。これからも御嶽山研究を継続し、この地の水文水質状況を明らかにしていきたいと考えています。

また、最後になりますが、この場を借りて、亡くなられた 58 名と 5 名の行方不明者の方に哀悼の意を表し、筆を置かせていただきます。

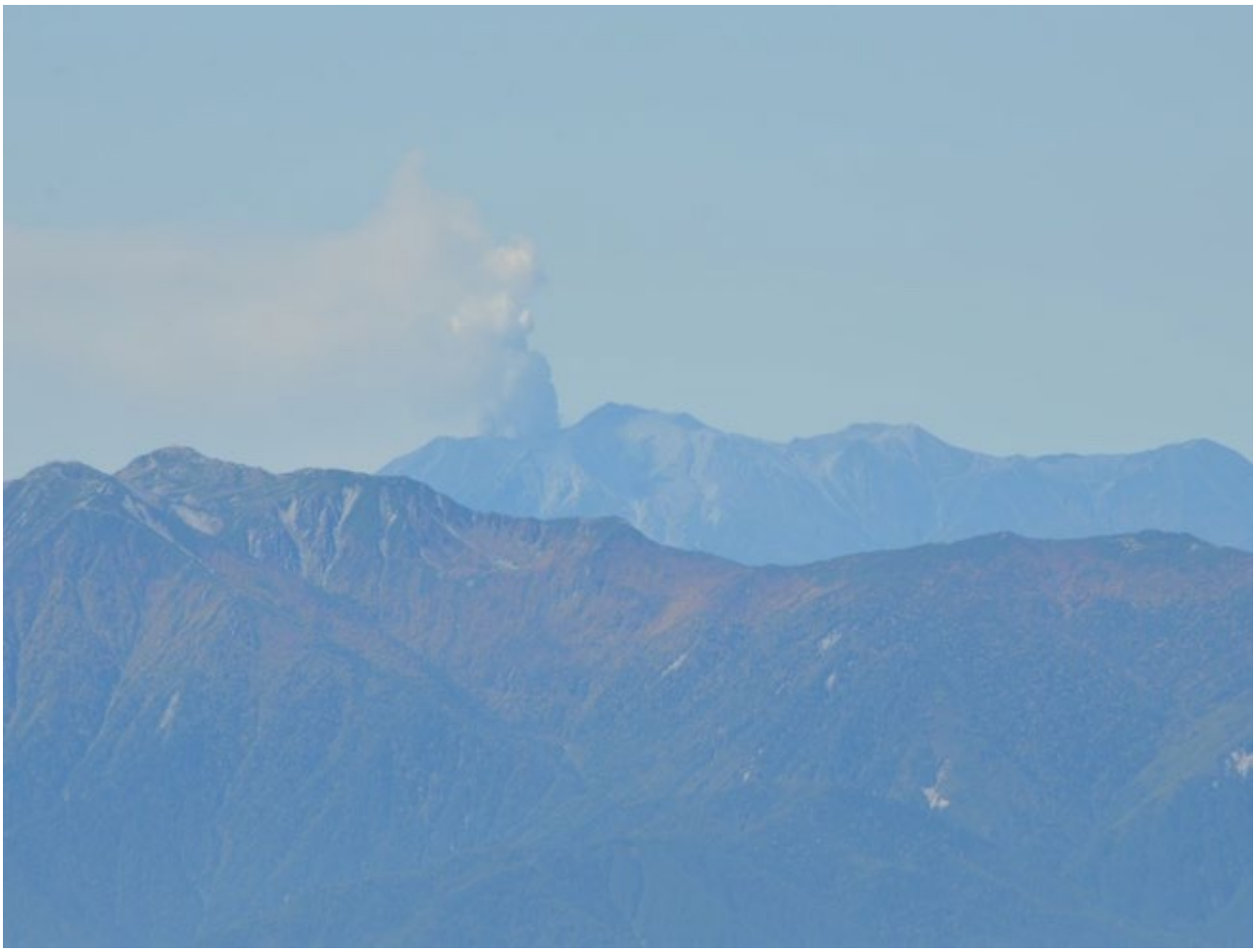

写真１　2014 年 9 月 28 日 北岳山頂から臨む御嶽山（著者撮影）

ISSN 1881-283X

幹事退任・新幹事就任のあいさつ

助成金担当退任のあいさつ
大八木　麻希（四日市大学）

2016 年から会計幹事、2019 年から研究助成幹事として務めさせていただきました。私の人生初の学会発表の場であるこの支部会で幹事を経験でき、他学会での幹事としても役立つことが多くありました。ご迷惑もお掛けしましたが、このような機会をいただけたこと感謝しております。これからも一会員として支部会の活動に参加していきます。

助成金・事業（談話会）担当就任のあいさつ
江端　一徳（豊田工業高等専門学校）

今年度より社会貢献（地域）の幹事留任とともに助成金・事業（談話会）担当を拝命しました豊田高専の江端です。社会貢献（地域）では、今後も継続して、御嶽山研究の充実と王滝村への社会還元を意識しながら取り組んでいく所存です。また、助成金担当として、東海地方の研究者や大学生、またジュニア研究者までを対象に幅広い支援を行い、陸水学研究の発展に繋がるよう援助していければと幸いです。そして、談話会については、今年、談話会を 2 回企画する予定です。東海地方の陸水学研究の紹介をいただくことで、互いの情報共有や新たな切り口からの研究の発展などが期待できる会の企画を検討しています。最後になりましたが、他の幹事の方とも連携しながら、本会の発展に尽力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

陸の水論文集 2021-2022 年の募集案内

編集委員長　野崎健太郎（椙山女学園大学教育学部）

陸の水論文集 2021-2022 年は、2022 年 12 月に発行いたします。現在、報告（Report）2 本が受理され、論文（Article）1 本が審査中です。これから論文集に投稿される方は、以下の手順で準備をお願いいたします。

1. 投稿の登録

投稿を予定されている方は、2022 年 4 月 30 日（土曜日）までに、①著者名（連名の場合は共著者も含めて下さい）、②著者の所属および住所、③筆頭著者もしくは連絡責任著者の連絡先、④題名（仮題で大丈夫です）、⑤原稿の区分（論文、報告、意見）、を明記した E-mail を編集委員長（ken@sugiyama-u.ac.jp）に送って下さい。

2. 原稿の締切

原稿は、陸の水 77/78 号、または日本陸水学会東海支部会 web site に掲載されている投稿規定、執筆要領を参照して作成して下さい。原稿は編集委員長まで E-mail の添付書類として送ってください。締切は 2022 年 8 月 21 日（日曜日）です。論文集に関するご意見やご質問は、編集委員長まで E-mail でお問い合わせください。

お知らせ　会費納入について

納入方法として、下記「ゆうちょ銀行」への振込、もしくは談話会や研究発表会などでの直接的なお支払いも受け付けております。会費納入状況が不明な場合は事務局までご照会ください。2 年度分の会費が未納の方は、規約に従い、翌年度には自動的に退会となりますのでご承知おきください。その際も、未納会費 2 年分のお支払いをお願いしております。

論文集については、納入が確認できた会員のみ、送付することが総会で承認されています。会員数の減少に伴い論文集発行の予算確保も難しい状況となっております。毎年度の送付が滞り大変申し訳ありませんが、会員の皆様にも現状にご理解頂き、確実な会費の納入をお願いいたします。退会をご希望の方は、日本陸水学会東海支部会事務局の E-mail アドレスまでご連絡ください。

日本陸水学会東海支部会事務局
E-mail: rikusui-tokai@rikusui-tokai.sakura.ne.jp

＜年会費＞
一般 2,000 円，学生（大学生以上）1,000 円，高校生以下は無料，
団体 4,000 円，家族 3,000 円
＜ゆうちょ銀行からお振込みの場合＞
　記号：12120-2　番号：73385891
　名前：日本陸水学会東海支部会
＜他の金融機関からお振込みの場合＞
　銀行名:ゆうちょ銀行
　店名：二一八（読み　ニイチハチ）　店番：218
　預金種目：普通預金　口座番号：7338589

カナ氏名（受取人名）: ニホンリクスイガツカイトウカイシブカイ

（編集後記）

総会・研究発表会が無事終了し、今年度の支部会の事業はすべて終了しました。準備等ご尽力くださった幹事の方々や参加してくださった会員の方々、本当にありがとうございました。まだまだコロナの影響で、サマースクールや現地見学会等、実施できなかった事業もありましたが、来年度こそは開催できることを期待したいですね。また、来年度の助成金の募集を開始しました。水辺環境にはまだまだ分からないことがたくさんあります。水辺環境についてこんなことが知りたい！こんなことを調べたい！そんなネタをお持ちの方がいましたら是非、応募していただけたら嬉しいです。

（自然共生研究センター　松澤優樹）